香美異界草紙

民話に息づく妖怪たち

【問い合わせ先】生涯学習振興課 ☎53・1082

【黒坊主】出典：土佐化物絵本（高知県立文学館蔵）

語り継がれてきた民話の世界を旅する

市街化が進んだ山田の町中で、妖怪に出くわす異界といわれても、ピンとこないに違いありません。

町に増える街灯が闇を削り、人や車が往来する。店や人家が立ち並び、寂しく怪しい雰囲気を感じることは少ないでしょう。

高知県の個人の方が所蔵していた**『土佐化物絵本（上・下）※』『絵本集艸』『新先生一代記』**という古い和綴じの本が平成13年に見つかり、その中には香美市を舞台にした怪異の物語が数多く語られています。エンコウやシバテン、天狗といったメジャーな妖怪たちが、私たちの身近な場所に登場する物語に触れると、何だか芸能人が町にやってきたような、映画の撮影が行われた場所に行ってきたような、とても面白い感覚を覚えます。

また、香北町や物部町にも数多くの民話が残されています。いまではさまざまな娯楽が増え、土地に根ざした昔話に親しむ機会というのは、極めて少ないのではないかと思います。妖怪の話や不思議な話、笑い話もあればとんち話もあります。

これらの物語は、単にお話というだけでなく、香美市の文化や歴史、その成り立ちなどを後世に伝える大切な役割をも担っています。書物が残されない時代、文化の継承は口伝で行われました。物語が語られなくなったいま、語り継がれてきた民話は途絶えようとしています。

幸いにして香美市には、土地に根ざした物語の本が多数残されています。それらは市立図書館でも読むことができます（9P参照）。まずは興味を持って、一度読んでみてください。それが、土地固有の物語を伝えていく大きな助けになるはずです。

今回の特集は異界への入り口。怖くて面白い不思議の世界へ、一歩足を踏み入れてみましょう。

※この本には表題がないため、県立文学館が展示したときにつけた仮題を使用します。

【毘沙門瀧の大坊主】出典：絵本集艸（高知県立文学館蔵）

語られてきた民話。伝えられてきた伝説。
かつてこの地にも息づいた、異界の空気を感じてみよう。